

令和5年度 文部科学省指定事業
「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」
報告書



広がる学び、多彩な未来

兵庫県立御影高等学校
文理探究科



巻頭言

兵庫県立御影高等学校 校長 森本 成己

文系志望者のみの「総合人文コース」から文系・理系どちらの生徒も学びを深めることのできる学科への改編を主体的に検討していた本校は、令和4年3月に策定された本県の「県立高等学校教育改革第三次実施計画」に合わせて、文理融合の学びを展開する「学際領域に関する普通科新学科」を目指すことになり、昨年度普通科改革支援事業に採択していただいた。本県では「学際領域に関する普通科新学科」の名称はすべて「文理探究科」で統一されることが決まり、本校の文理探究科はいよいよ令和6年度からスタートする。

本事業2年目の新たな事柄として①文理融合の学びの展開 ②先行実施の拡大、並びに検証とブラッシュアップ ③コンソーシアムを活用した学びの広がり ④コーディネーターの増員、といったことがあげられる。詳細は本文に譲るとして、ここでは①②について概要を述べる。

今年度、神戸市から市内の放置竹林の活用について高校生の視点からの提案を求められ、コースの1年生が8つの班に分かれて探究し神戸市長の前で発表する機会をいただいた。実は、今年度のコース入学生から文理両方に対応できるカリキュラムとし、文系・理系どちらの志望者も混在している。ある班の竹を活用した商品に関する話合いでは、理系志望の生徒が商品の成分に注目した意見を出し、文系志望の生徒が販売に注目した意見を出していた。生徒たちは自分の意見を理系的、文系的とは意識していないが、本来理系も文系も関係ない環境問題（現実の問題）を文理両方の視点から意見を出して話し合っていた様子に、昨年度カリキュラム開発会議で作成した概念図にある文理融合の学びの一端を感じた。また、この活動では久元神戸市長様から提案に対して前向きな検討の言葉もいただき、自分たちの提案が社会に役立つ可能性を実感することで探究に対する意欲向上につながった。

先行実施内容として、今年度はクリティカルシンキングもスタートさせた。また、探究活動を支えるものとしてクリエイションを昨年度から先行実施している。クリエイションは選択STEAM講座として、原則、講師は企業等外部の方をお願いしているが、講座の終了後、講師・コーディネーター・担当者・引率者等が集まり、生徒の様子を踏まえながら各講座の目的の達成度、内容の妥当性等を振り返っている。外部講師に完全に任せるのではなく、関係者がその講座について議論し共有することでコーディネーターをはじめ関係者全員がはっきりと目的を意識して講座内容を検討しており、次年度のブラッシュアップにつながるものと期待している。クリエイションは「越境した学び、学校学校しない学び」として本校の文理探究科の特徴の一つとして大切にしていきたいと考えている。

さて、今年度コーディネーターを3人体制とし、各々の強みを生かしながら業務に取り組んでいただいているが、クリエイションをはじめ企業・大学等外部との連携にコーディネーターが果たす役割は大きかった。来年度は本事業の最終年度である。事業終了後のコーディネーター業務のあり方やクリエイション等、外部との連携に必要な経費の問題など、令和7年度以降の課題を整理・検討し、県教育委員会と連携しながら引き続き文理探究科の学びを充実させていきたい。

最後に、運営指導委員会、カリキュラム開発会議、コンソーシアムで御支援・御指導を賜りました委員の皆様をはじめ、お世話になりました関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、これからも引き続き御支援・御指導を賜りますようお願い申し上げます。

目次

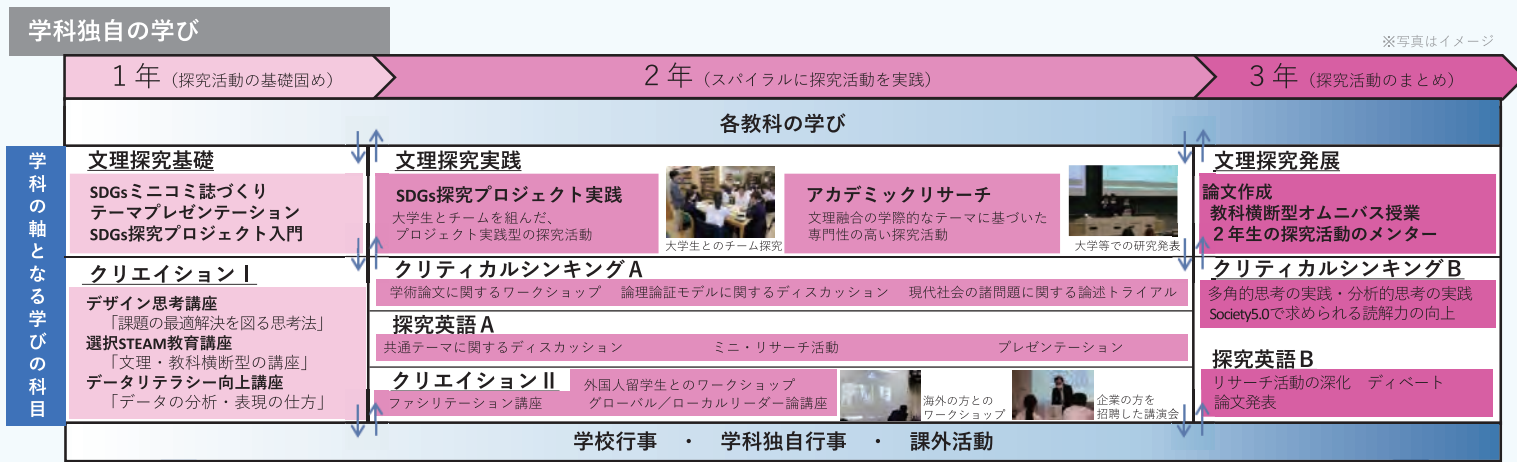
・ 巻頭言	1
・ 目次	2
I ビジュアル資料	3
概要図 ①実施計画概要	
②実施報告概要	
本事業等に関する概要スライド	
II 研究開発の概要（事業実施計画書(抄)・事業結果説明書(抄)）	11
①事業の実施計画	
②事業の実施日程	
③実施の概要	
1 カリキュラムの検討内容	
2 コーディネーターの活動状況	
3 管理機関による事業の実施体制や管理方法	
4 管理機関による支援体制（予算・人的配置等）	
5 高等学校における事業の実施体制や管理方法	
6 運営指導委員会の体制および取組	
7 コンソーシアムの体制および取組	
8 管理機関における事業全体の成果検証、評価	
9 新学科の設置及び設置に向けた検討の関係者への説明の実施	
10 成果普及のための取組	
11 国の指定終了後の取組継続のための仕組みづくりに関する取組	
III 研究開発の内容	48
①3つの会議（運営指導委員会、カリキュラム開発会議、コンソーシアム会議）	
②先行実施事業（クリエイション講座）	
③目標の達成状況、成果、評価	

【兵庫県立御影高等学校】学際領域学科

文理の枠を超えた学びを通し、広い価値を創造する“Society5.0の時代に求められる生徒”を育てる学際領域学科の創設

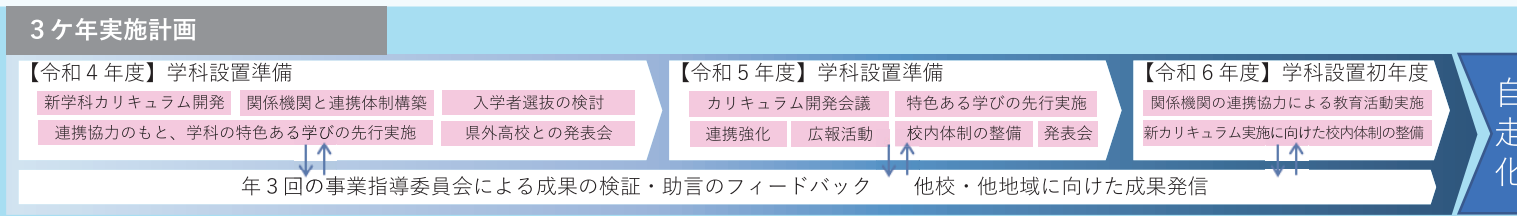
1 ビジューアル資料

社会が抱えている課題	学科の特色
<ul style="list-style-type: none"> SDGsの実現やSociety5.0の到来。 文系、理系の知識・思考だけでは対処できない課題が多いが、文理を超えた学びが展開されていない。 課題を一面的に捉える傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 探究を軸とし、人文科学・社会科学の学びに加え、自然科学分野も取り込んだ学びを展開。課題に協働的に取り組む学びを実施する。 大学や研究機関、NPO等とコンソーシアムを創設。学びの共創による学科独自の学びを展開。体系的に学びを深め、多様な認識を育てる。 総合人文コース15年間の実績を活かし、ワークショップ、STEAM講座、講演等、学科独自の取組を実施。生徒の資質・能力を養う。 学科独自科目を通じて培った思考力・判断力・表現力、学びに向かう主体性や協働性を活かし、幅広い価値創造ができる人を育てる。



コーディネーターの業務

学際的学びを新たに行うための高等教育機関や研究機関等との連携依頼や連絡調整、地域課題に係る探究活動充実のための行政機関や企業等との連絡調整、学科内容の周知・広報の検討、校内組織体制の整備等に加え、年数回開催予定のコンソーシアム会議・カリキュラム開発会議等、連携機関等との会議運営に携わり、学びの共創・事業全体の活性化に寄与。



育てたい力

- 主体性**
価値を見つけ生み出す感性
価値を見出す力・好奇心・発想力
- 協働性**
リーダー性・フォローシップ
- 課題解決能力**
読解力・データリテラシー
数学的思考力・科学的思考力
現状分析力・実行力
- 言語表現スキル**
発信力・対話力・創造性・構成力
- 多様な認識**
文・理の枠を超えた高次の認識
多面的な認識・メタ認知能力

育てたい生徒像

これからの社会で活躍できる生徒

- 未来の自分を見据え、自ら問いを立て、主体的に最後まで粘り強く取り組むことができる生徒
- 価値観の多様性を認め、誰とも力を合わせて協働し、社会のリーダーとして活躍できる生徒
- 現状について正確に把握・分析し、見つけた課題を正しい知識や情報をもとに解決できる生徒
- 力強い一歩を、情熱と知的好奇心をもって踏み出し、失敗を恐れずに挑戦・発信できる生徒

スクールミッション 達成

【兵庫県立御影高等学校】学際領域学科（令和6年度設置予定）

学科設置の目的・特色

広がる学び、多様な未来

予測不能な今後の社会において、多彩な力を発揮し、新たな価値を創造しながら活躍できる人を育成することを目標とする。その目標を実現させるため、**校外機関とも連携**をとりつつ、生徒の学びのフィールドを校外に広げ、**学科独自の開講科目**を軸に、多様な認識や高次の認識を育てながら、**学際的に取り組む探究活動**を展開することで、生徒の知的好奇心を高めるとともに、主体性や協働性、課題解決能力、言語表現スキルの伸長をはかる。

校外機関との連携

コーディネーターを活用し、新たな思考や新たな価値観、知的好奇心を育むために、大学や行政、研究機関、企業や社会貢献を行う団体等と連携した教育活動を実践

学科独自の開講科目

教科の専門知識を幅広く受講を可能とするとともに、実社会で活かすことができる「読解力」や「論理的思考力」「対話力」「表現力」等を磨くための科目を設置

学際的に取り組む探究活動

探究のプロセスを体系的に学び、自らの興味関心に応じた課題研究や、地域に関する探究活動に学際的に取り組む授業を設定し、生徒個々が主体的に探究を実践



主体性



協働性



課題解決能力



言語表現スキル



多様な認識

育てたい生徒像

地域や国際社会のありようをしっかり目を向け、社会に貢献しようという志をもち、さまざまな事象の解決や正、および、原因の追究に粘り強く挑戦し続けることができる生徒

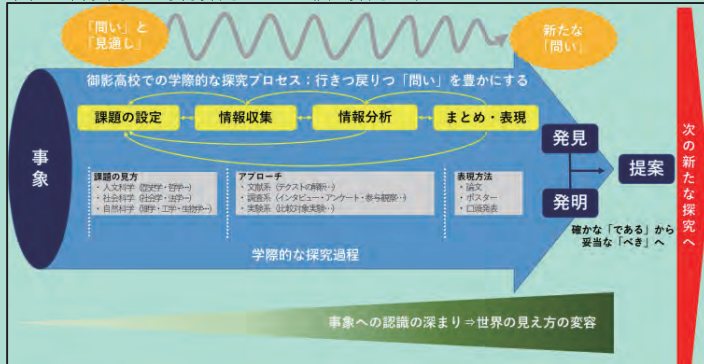
人文・社会・自然科学の専門知識を深め、事象を多面的に認識ができるようになるとともに、自らの読解力や論理的思考力を磨き、新たな価値を見出だそうとする好奇心をもつ生徒

地域や国際社会に生きるさまざまな方と対話を重ねつつ、自ら学び、考えて行動できる主体性や、周囲の仲間と協働しながら物事に取り組む中で、リーダーシップが発揮できる生徒

令和4年度の取組・成果

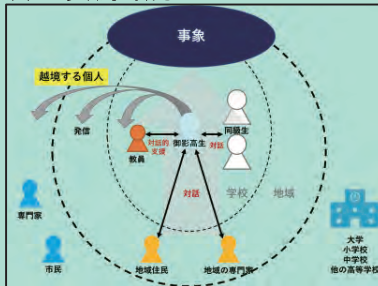
カリキュラム開発

図1：御影高生の学際探究モデル：個人探究の深まり



7回開催したカリキュラム開発会議で、2つのモデル図を開発・共有し、体系的な探究カリキュラムを検討 →令和5年度より先行実施

図2：多層的な探究コミュニティのモデル



関係機関との連携・協働体制の構築

運営指導委員会

進捗状況を報告し、運営に対し、指導助言をいただく第三者により構成された会議

カリキュラム開発会議

本校校長のリーダーシップのもと、外部の専門家を招聘し、本校の特色づくり委員会とタイアップしながら、新学科のカリキュラム等を協議し、新学科生の教育内容について方向性を打ち出すための会議

コンソーシアム会議

本校の教育活動を支援する団体等より、どのような協力が可能かを提案していただいたり、現状行っている活動や今後の活動に対して助言をいただいたりする会議

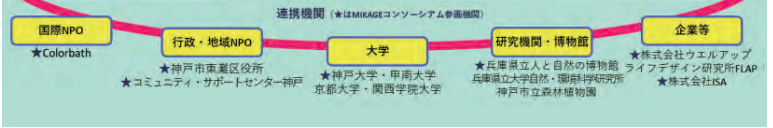
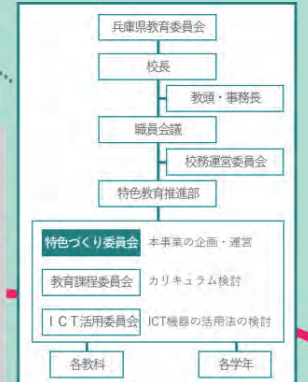
コーディネーター

高等教育機関や研究機関等との連携依頼や連絡調整

地域課題に係る探究活動充実のための行政機関や企業等との連絡調整

コンソーシアム会議・カリキュラム開発会議等、連携機関等との会議運営

2名のコーディネーターを中心に、協働体制を構築



学びの先行実施

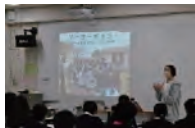
学年を越えた探究発表会
県外高校との探究発表会
11回のクリエイション講座 等



2年生が1年生に探究成果発表



県外高校との探究発表交流会



NPO法人の方を招聘した授業



企業の方を招聘した授業

令和5年度の課題

学科開設準備最終年度

カリキュラム

- ・先行実施の成果検証
- ・新たなカリキュラムの開発

関係機関との連携強化

- ・クリエイション講座の拡充
- ・連携協定の締結

広報活動の充実

- ・中学生や保護者への周知
- ・地域内外に向けた取組の発信

校内体制の整備

- ・学科準備委員会の設置
- ・新たなカリキュラムの実践準備

入学選抜方法の検討

- ・最適な方法の検討
- ・入学選抜方法の周知

令和6年度
学科開設



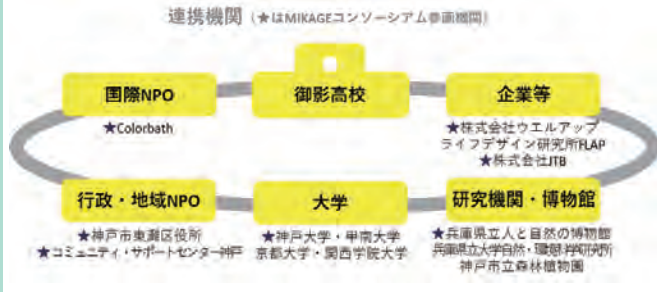
別紙様式5

【兵庫県立御影高等学校】学際領域学科「文理探究科」（令和6年度設置）

学科設置の目的・特色ある教育の概要 / 広がる学び、多彩な未来

校外機関との連携

コーディネーターを活用し、新たな思考や新たな価値観、知的好奇心を育むために、大学や行政、研究機関、企業や社会貢献を行う団体等と連携した教育活動を実施



学際的に取り組む探究活動

探究のプロセスを体系的に学び、自らの興味関心に応じた探究活動や、地域に関する探究活動に学際的に取り組む授業を設定し、生徒個々が主体的に探究を実施

学科独自の開講科目

教科の専門知識を幅広く受講を可能とするとともに、実社会で活かすことができる「読解力」や「論理的思考力」「対話力」「表現力」等を磨くための科目を設置

- 1年 Cross I・Creation I
- 2年 Cross II・Creation II
- クリティカルシンキングA・Creative Presentation
- 3年 CrossIII・クリティカルシンキングB

グラデュエーションポリシー

地域や国際社会のありようをしっかり目を向け、社会に貢献しようという志をもち、さまざまな事象の解決や是正、および、原因の追究に粘り強く挑戦し続けることができる生徒

人文・社会・自然科学の専門知識を深め、事象を多面的に認識ができるようになるとともに、自らの読解力や論理的思考力を磨き、新たな価値を見出だそうとする好奇心をもつ生徒

地域や国際社会に生きるさまざまな方と対話を重ねつつ、自ら学び、考えて行動できる主体性や、周囲の仲間と協働しながら物事に取り組む中で、リーダーシップが発揮できる生徒



主体性



協働性



課題解決能力



言語表現スキル



多様な認識

予測不能な未来において活躍できるリーダーを育てる

令和5年度の取組成果・課題 / 学科開設準備最終年度

コーディネーターの増員と業務の明確化

・取組 [令和4年度→令和5年度]

コーディネーター配置数 [2名→3名]

3名の業務分担を実施し、各々のスキルが活かせる活動に従事。

・課題

令和7年度以降の在り方の検討
コアタイムの設定
「目指す体制」の確立

広報活動の充実

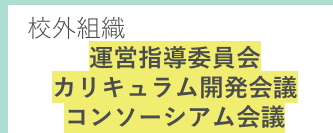
・取組

中学校71校に訪問・中学校等主催説明会に14回出席
説明会は10日間・20回実施(3300名を超える申込)
県内外の高等学校からの視察についても対応

・課題

広報活動の継続
説明会の実施方法検討
現役生による説明の実施

目指す体制



援助・助言

コーディネーター

フィードバック

アイディア・リソース提供

目的に基づいた実践

特色教育推進部・学年・教科

取組み・成果

文理探究科

mikage senior high school

令和6年度開設(定員40名)

関係機関との連携強化

・取組 [令和4年度→令和5年度]

コンソーシアム会議数増 [1回→3回]
コンソーシアム参画企業の一部変更
コンソーシアム団体による授業の実施

・課題

さらなる協働体制の構築に向けて、協議を進め、「目指す体制」を確立



コンソーシアム全団体による授業「グローバルコンシャスデイ」

カリキュラム検討・学びの先行実施

・取組

学際的に取り組む探究活動を軸としたCross I・II、Creation Iの先行実施
クリティカルシンキングAの開講

・課題

次年度以降本格実施できるよう「試行-検証」を繰り返し、先行実施科目の充実化
次年度より先行実施する科目の実践・検証

学校概要



創立80周年を迎えた伝統校
 神戸市の中心、神戸三宮駅から1.5分で本校正門にアクセス可能な交通至便な位置にある伝統校。地域からの信頼も厚く、3万人を超える卒業生を輩出した。令和3年度には創立80周年を迎えた。令和6年度より、平成19年度に設置した総合人文コースについて、学際的な探究活動を軸とした文理探究科に改編することが決定している。

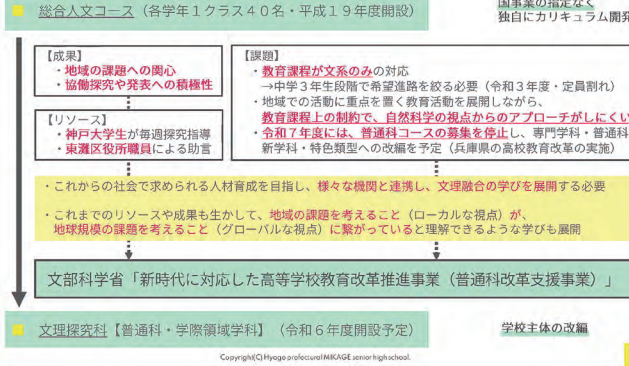
国公立大学 現役合格者 約4割
 何事にも真面目に取り組む生徒が多く、10~15年ほど前に比べると、近年は国公立大学に現役で合格する生徒数が倍増。いよいよ現役で国公立大学に合格する生徒が全卒業生の約4割程度に。特に、長期休業中の補習や、国公立大学の2次試験対策、小論文・面接対策等、本校の教員が一丸となり、生徒の進路実現の支援にあたっている。

勉強も、行事も、部活も
 令和2年度卒業生を対象とした学校生活に関するアンケートで、本校での生活の満足度は95%との結果が得られた。勉強にも、行事にも、そして、部活動にも熱心な生徒が多く、日々の高校生活は大変充実している。クラスや部活動で得た友人とともに目標に迎える雰囲気も、いつでも質問に応じてくれる経験豊富な教員の雰囲気も高評価。

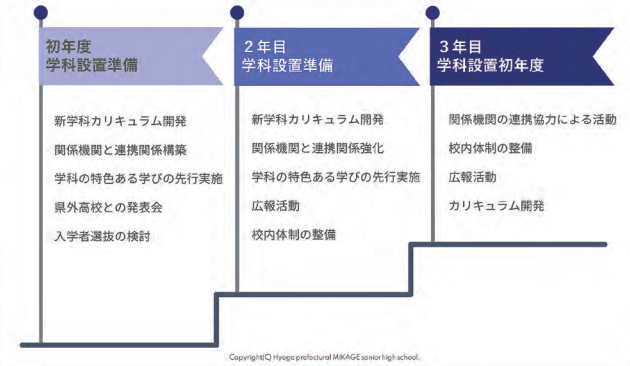
みかけ魅力化プロジェクト
 半世紀続いた聖彰高校伝統の制服が、多様性を鑑み、令和5年度入学生から変更された。また、生徒からも要望があったトイレの改修工事を実施し、ホールムームに近いトイレはすべて改修され、最新の設備が整った。そして、令和4年度には、文部科学省の普通科改革支援事業に指定され、探究を軸とした新たな取組みにも挑戦している。

Copyright(C) Higo prefectural MKKAGE senior high school.

総合人文コース から 文理探究科 へ



普通科改革支援事業 三ヶ年実施計画



今年度の取組

新学科カリキュラム開発や本事業運営のための仕組み・チームを活用し、本格始動する

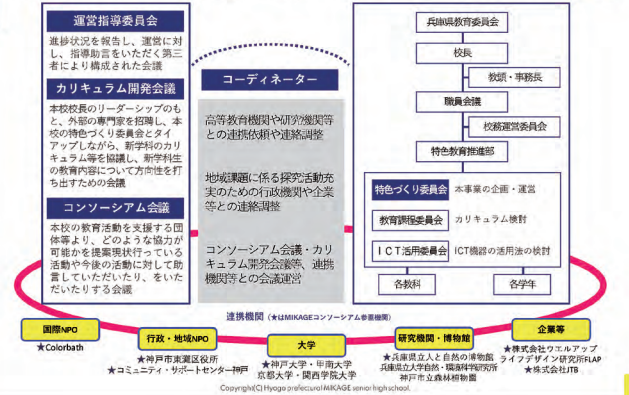


- 新学科カリキュラム開発**
→3つの会議・先行実施
- 関係機関と連携関係強化**
→コンソーシアム各団体より講師を派遣いただき、グローバルコンシャスデーの実施
- 学科の特色ある学びの先行実施**
→クリエイション講座・生徒の探究発表会・探究活動カリキュラム
- 広報活動**
→校外説明会も含め、年間10回の学校説明会を実施
- 校内体制の整備**
→コーディネーターの増員、新学科開設後の担当部署の検討



Copyright(C) Higo prefectural MKKAGE senior high school.

普通科改革支援事業 運営体制



コーディネーター



- 担当コーディネーター(機関*)と具体的な仕事**
- 【学校経験者向】**
■高校におけるコーディネーター機能
 ・ビルドアップ/レクチャーの計画、運営
■広域体制におけるコーディネーター機能
 ・3つの会議のコーディネート、ファシリテーション
 ・事業や特色づくり委員会等での積極的なコミットメント
- 【地域プロフェッサー型】**
■高校におけるコーディネーター機能
 ・クリエイション講座(STEAM講座)のコーディネート
 ・クリエイション講座案内作成
 ※本事業に関わるメンバーの連絡ツールの整備、運用
- 【准定型】**
■高校におけるコーディネーター機能
 ・クリエイション講座(STEAM講座)のコーディネーター
 ・授業運営のサポートとして参加
■広域体制におけるコーディネーター機能
 ・事業の進捗管理補助(会議補助)



竹中 敏浩 氏



東 善仁 氏



林 留里 氏

兵庫県立人と自然の博物館 特任研究員。専門は地学。県立三大東高校・北摂三田高校長を歴任し、定年退職後、同博物館専門員を経て現職。博物館の生涯学習講座や大学・研究機関等とのコーディネーター業務を担当。武庫川女子大学薬学部非常勤講師も兼任。

合同会社コブネ共同代表。神戸・奈良・島根を拠点とし、地域プロジェクトの企画運営を担当。近年は神戸市西区のイベントの企画運営、兵庫県立大学通信の編集、奈良県手取市の地域プロジェクト「INCL実利和」のコーディネーターを担当。

立命館大学経営学研究科修士課程2年生。学部生の頃は、NPO法人 Colorbath とのつながりから大阪府下の公立高校の探究活動に参加。オーストラリアで開催された国際学会 24th CINet Conferenceにて座席的な学びに関する発表を行う。日々「学び」と「協働」の融合について考える。

*「高校と地域をつなぐ人材の在り方に関する研究報告」報告書(文部科学省,2019)

本校のコーディネーターの勤務



- 県教委から「週1日の非常勤」・「カリキュラム開発等専門家」としての委嘱
→ 両コーディネーターは別の仕事との兼務。週1日出勤。年間280時間（週あたり7時間程度）の勤務。
- 担当教員との打合せ
→ 週ごとに担当教員と打合せをし、出張等の予定も含め、あらかじめ勤務計画を提出。
→ 会議や講座に関するイメージは、可能な限り言語化・可視化し、齟齬がないように双方とも努めている。
→ 県教委からの連絡は、本校管理職から担当教員に伝えられた後、担当教員から両コーディネーターへ。
- 情報共有の工夫
→ 東コーディネーターからの提案で、slackを用いることとし、打合せ内容、進捗状況や勤務状況を共有。
- 職場環境と、校内にもたらされているよい影響
→ 職員室に両コーディネーターの個人席と、専用プリンターを設置。勤務日に実施する諸会議にも出席。
→ さまざまな経験をもとに、関連する事業だけでなく、校内の動きについても相談し、提案いただく。
→ 既存の在り方に固執することなく、フラットな意見がいただけるので、新たな取組導入のきっかけに。

Copyright(C) Hyogo prefectural Mikage senior high school.

10

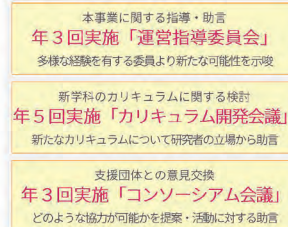
実践成果①

事業指定初年度で順調に議論・検討が進行
→ 取組の枠組みで2年先取りで先行実施する授業を実施

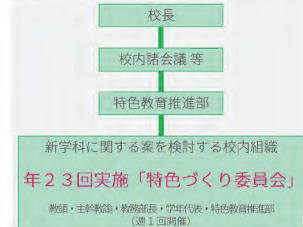


- 本事業において設置した「運営指導委員会」「カリキュラム開発会議」「コンソーシアム会議」
→ コーディネーターが議事進行を担当・新学科に向けて新たな視野を与えていただける場
→ 「特色づくり委員会」も含めて、忌憚なく意見が言い合えたり、悩みを共有したりする場を設定

本事業での新たな組織



校内組織



Copyright(C) Hyogo prefectural Mikage senior high school.

11

実践成果②

コーディネーターを中心とした計画・調整・運営
→ 事業指定初年度にして11講座を開発・実施
2年目は、6講座をそれぞれ3日間実施



- 新学科の学びの先行実施「クリエイション講座」
→ 初年度：年11回実施（延べ161日・172名参加）・2年目：延べ18日間の開催



「クリエイション講座」に参加し、どのような力を磨きましたか。（実施後、受講生徒アンケート結果より）

ゴールイメージとして、「主体性・協調性・課題解決能力・言語表現スキル」のいずれかを磨く講座展開を講師に依頼しており、ほぼすべての生徒が各講座の講師がイメージした通りの学びができています。
さらに、複数回答を可としているため、上記以外にも、「物事を多面的に捉える力」「自己に対する理解」「発想力」「大きなゴールを小さく分けて考え、段取り力、計画力」「立ち止まる壁に突進し、乗り越える力」といった回答等、子どもたちの主体的な気づきが多かったことも、講座の成果としてあげられる。
→ 「学校で学んだ学び（教員が組み立てる「授業」としての学び）」以外の学びの必要性 → 社会に開かれた教育課程の必要性

Copyright(C) Hyogo prefectural Mikage senior high school.

12

実践成果③

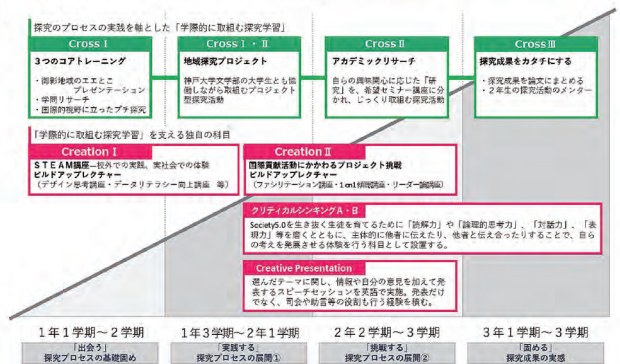
同年齢・異年齢の「高校生」の発表に触れる
→ 自らの探究活動へのさらなる動機付け



- 学年の垣根を超えた探究発表会
→ 緊張しながら発表する2年生・意欲的に聴講する1年生の双方にとって、大きな成果が得られる場
- 県域を超えた高等学校との探究交流発表会
→ 自ら実施した探究活動の成果を体感する距離で発表することによって、生徒の学びを深めるだけでなく、発表スキルの向上につながったり、さらなる探究活動の動機付けにつながっている
- シンポジウムや、レクチャー、コンソーシアム団体の方を招いたグローバルコンシャスデイの実施
→ 生徒を巻き込んだパネルディスカッションや、総合人文コースの学びを一般クラスにも広げる取組を実施
- 大学等での校外探究発表会
→ 探究活動のコミュニティを「越境」する契機としつつ、より広い「社会」を意識する
- 視察訪問への対応・文部科学省での実践発表
→ 全国から9つの団体等からの視察をいただき、有意義な意見交換が実施できている。
また、文科省にて開催された全国フォーラムにて自校の取組を全体発表。自校の取組の独自性を確認しつつ、他校の実践例をもとに、自校の取組をより深めるきっかけになっている。

文理探究科の独自科目

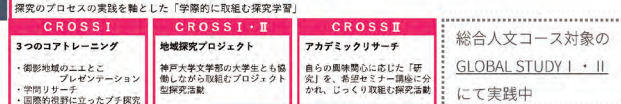
多くの科目について
先行実施中



Copyright(C) Hyogo prefectural Mikage senior high school.

14

文理探究科の独自科目 先行実施



「学際的に取組む探究学習」を支える独自の科目

クリエイション I
STEAM講座一校外での実践、実社会での体験
ビルドアップレクチャー
(デザイン思考講座・データリテラシー向上講座 等)

クリエイション II
国際貢献活動にかかわるプロジェクト挑戦
ビルドアップレクチャー
(ファンクション講座・1st1特別講座・リーダー特別講座)

クリティカルシンキング
Society5.0を生き抜く力を育てるために、「読解力」や「論理的思考力」、「対話力」、「表現力」等を磨くとともに、主体的に他者に伝えたり、他者と伝え合ったりすることで、自らの考えを表現させる体験を行う科目として位置する。

すべてのプログラムについて、先行実施し、プログラムの内容とその成果を検証する。

国際貢献活動プロジェクトは次年度4月に実施予定。他のプログラムは、すべて今年度中に先行実施。

すべてのプログラムについて、先行実施し、プログラムの内容とその成果を検証する。

Copyright(C) Hyogo prefectural Mikage senior high school.

15

独自科目の先行実施

Cross I～III

Cross I (1年)
 1学期 御影地域のエエとこプレゼンテーション
 夏休み 学問リサーチ
 2学期 テーマリサーチA・B
 A: 神戸市の放置竹林の竹を活用する提案発表
 B: ネパールのコーヒーを日本の高校生に広める提案発表
 3学期 地域探究プロジェクト

Cross II (2年)
 1学期 地域探究プロジェクト・神戸大学との連携
 2学期 アカデミックリサーチ・外部発表
 3学期 アカデミックリサーチ・外部発表

Cross III (3年)
 1学期 探究活動の論文化
 2学期 2年生の探究アドバイザー（メンター）としての活動

独自科目の先行実施

Cross I

御影地域のエエとこプレゼンテーション
 御影地域の「エエとこ」を班で取材し、動画か紙面にまとめ、発表する。



イラストレーターこもりあやみ氏による講演 生徒個人iPadにより、班員と共同編集 発表は1～3年の総合人文コース生に向けて

独自科目の先行実施

Cross I

テーマリサーチA（神戸市×御影高校）
 探究活動の基礎を学ぶため、提示されたりサーチクエストをもとに、探究活動に挑戦。
 今年度は、神戸市市長室広報戦略部より「竹の活用アイデア」を求められ、実践。

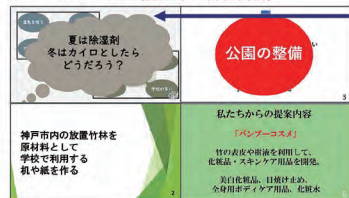


京都芸術大学 吉田大作氏による講演 バスを貸し切り、竹林見学ツアーを開催 発表は久元神戸市長ら神戸市幹部に向けて

独自科目の先行実施

Cross I

テーマリサーチA（神戸市×御影高校）



文系志向の生徒と、理系志向の生徒とが協働する探究活動となったため、単に「竹を消費する」ことを「文系的な立場から課題解決に向かう」だけでなく、たとえば、「カイロ」の内容物を科学的に考察した結果を踏まえる等、学際的な視野に立ち、地域の探究活動に取組んでいる班も見受けられる。

独自科目の先行実施

Cross I

テーマリサーチB（Colorbath×御影高校）
 探究活動の基礎を学ぶため、提示されたりサーチクエストをもとに、探究活動に挑戦。
 ネパールで収穫されたコーヒーを、どのように高校生に広めるかという探究活動を展開。



Colorbath 榎本 陸彦氏による講演 市販コーヒーの飲み比べも実施 グループ別ディスカッション

最終発表は、総合人文コース2年生の先輩に向けて提案。インスタグラムを用いての発表を実施。

独自科目の先行実施

Cross II

地域探究プロジェクト（神戸大学×御影高校）
 「地域の誰かの困りごとを是正・解消するために高校生としてどのようなことができるか」をテーマとした探究活動を神戸大学の学生と協働的に探究活動に取組む。



毎週火曜日の午後に協働探究を実施 プレ発表は神戸大学の先生からも指導 最終発表会は神戸大学で実施

独自科目の先行実施

■ Cross II

アカデミックリサーチ (さまざまな団体×御影高校)

自らの興味関心に基づく探究活動を、教育・国際・地域環境・歴史文化・国語国文学の5つのセミナーに分かれて実施。※次年度からは、自然科学・ものづくり等の講座も展開。



セミナーごとに専門的な内容の講義を実施

個人、あるいは、グループでの探究活動

近隣小学校での模擬授業 (教育セミナー)

成果は、大学等校外での発表も予定している。
次年度には、学びの成果を論文としてまとめて発表。

独自科目の先行実施

■ Creation I・II

Creation I (1年)	1学期	ビルドアップレクチャー・世界で活躍するモデル像	4時間
	夏休み	選択STEAM講座	21時間
	2学期	ビルドアップレクチャー・データサイエンスの世界	3時間
3学期	他校との合同での探究成果発表会		7時間

Creation II (2年)	春休み	Tryプログラム(仮称)【英語も使い、国際貢献に挑戦】	21時間
	1学期	ビルドアップレクチャー ・グループディスカッションのファシリテーション研修 ・1on1での傾聴研修	4時間 3時間
	3学期	他校との合同での探究成果発表会	7時間

独自科目の先行実施

■ Creation I

選択STEAM講座

企業や大学等より講師を招聘し、学びのフィールドを校外に移す。探究活動につながる思考を獲得したり、「主体性」「協働性」「課題解決力」「言語表現力」を磨いたりする活動を展開



経営

里山

地域とテクノロジー

地震と防災

生物多様性

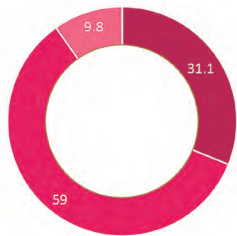
建築

クリエイション講座

■ 指標への影響

将来、国や地域の担い手として、積極的に政策決定にかかわりたいですか。

n = 61



- ぜひ関わりたい
- どちらかと言えば関わりたい
- あまり関わりたいくない
- まったく関わりたいくない

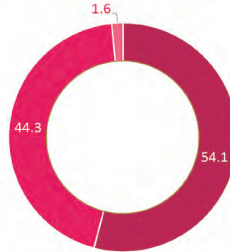
目標値 55%
2022年度 90.1%

クリエイション講座

■ 指標への影響

国際社会の課題解決に自分も貢献したいと思いますか。

n = 61



- ぜひ貢献したい
- どちらかと言えば貢献したい
- あまり貢献したくない
- まったく貢献したくない

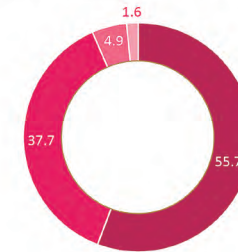
目標値 75%
2022年度 98.4%

クリエイション講座

■ 指標への影響

課題解決のプロセスにおいて、客観的な証拠に基づき、科学的視点から課題解決にあたることができる。

n = 61



- とてもそう思う
- どちらかと言うとそう思う
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

目標値 60%
2022年度 93.4%

独自科目の先行実施

■ Creation II

ビルドアップレクチャー・1on1での傾聴研修

2年生が後輩1年生に探究活動の現状について聞き出し、励ますワークショップを実践する「御影探究サークル」のための研修として、傾聴にかかわるトレーニングを実施。



2年生同士での実践

実践にあたってのコンヤポイントを講義

学年を超えた交流「御影探究サークル」実施

Copyright(C) Hyogo prefectural MIKAGE senior high school.

28

その他の先行実施事業

グローバルコンシャスデイ（12月15日）

総合人文コースの学びを一般クラスにも広げることを考え、2年生全員を対象に3コマ実施。コンソーシアム団体に1講座ずつ担当していただき、12講座の講義とワークショップを展開。



Copyright(C) Hyogo prefectural MIKAGE senior high school.

29

生徒の探究成果発表会

■ 県外高校との交流【岡山学芸館高等学校】

・7月（御影高校にて）、3月（岡山学芸館高校にて）の2度、両校の70～80名程度・計140名が参加する交流発表会を対面にて実施。

「大人」が枠組みだけを調整し、生徒が主体となって、計画・進行。ワクワクする交流会を実施。



Copyright(C) Hyogo prefectural MIKAGE senior high school.

30

文理探究科に関する広報

令和5年 3月	県教委より新学科設置に関するプレスリリース
4月	学区内の各中学校を訪問（中学校の先生方にPR・パンフレット持参）
5月	第1回オープンハイスクール
6月	校外学校説明会【3日間・3会場】
7月	第1回学科説明会
8月	第2回オープンハイスクール
9月	授業公開
10月	第2回学科説明会
11月	第3回オープンハイスクール



学科説明会では2年生がグループディスカッションのファシリテーションを実施する場

※上記以外にも、中学校主催の学校説明会や、学習塾主催の高校説明会等にも積極的に参加
→ 本校文理探究科に関する説明に加え、可能な限り、普通教育を主とする学科・学際領域に関する学科に関する周知も含む。

Copyright(C) Hyogo prefectural MIKAGE senior high school.

31

志願者の状況に関して

■ 入学試験について

- ・令和4年度までは「文系」進路のみに対応した総合人間系コースとして広報していた。
- ・令和5年度より、「文系」「理系」両進路に対応するとし、入試を実施した。
→入試の倍率が、2.0倍に増加した。
- （参考）現在のところ、文系進路を希望している生徒 23名
理系進路を希望している生徒 17名
- ・令和6年度より、文理探究科の入試が開始。令和6年度は、志願者の倍率が2.4倍に増加した。

期生	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	1
倍率	2.9	2.4	2.3	2.0	1.8	1.6	1.8	1.8	1.6	1.8	2.1	1.5	1.3	1.4	0.8	1.3	2.0	2.4

Copyright(C) Hyogo prefectural MIKAGE senior high school.

32

今後の課題

■ 先行実施

- ・ CrossIIIにかかわる授業内容の先行実施—探究活動の論文化・2年生のメンター
- ・ Creation Iにかかわる授業内容の先行実施—データサイエンス分野のレクチャー
- ・ Creation IIにかかわる授業内容の先行実施—国際貢献ワークショップ（英語活用）実施

■ 新学科の受け入れ体制の整備

- ・ 入試後の動きを具体的に想像しながら、新学科の生徒を「育てる」体制を構築

■ 令和7年度以降（文科省事業の指定後以降）の動きの検討

- ・ 連携体制の継続化の在り方
- ・ 文理探究科の生徒を対象とする科目のカリキュラム開発・検討
- ・ 一般クラスを含む全校生徒に対する探究活動への還元

Copyright(C) Hyogo prefectural MIKAGE senior high school.

33

II 研究開発の概要（事業実施計画書(抄)・事業結果説明書(抄)）

①事業の実施計画（所属等は令和5年3月31日現在）

1 事業の概要

(1) 学際領域学科又は地域社会学科を設置する学校名・設置（予定）年度

公立・私立・ 国立・株立の別	学校名 (ふりがな)	学科の 種類	設置（予定）年度	決定
公立	兵庫県立御影高等学校 (ひょうごけんりつみかげこうとうがっこう)	学際領域 学科	令和6年度	○

(2) 学校の詳細

課程別	新学科の収容定員	学年制・単位制の別	学科の名称 (決定している場合)
全日制	40人×3学年=120人	学年制	

(3) 当該学科における特色・魅力ある先進的な教育の取組について

- 普通科総合人文コースの学びを発展させて学際領域学科を設置
平成19年に設置した総合人文コースを改編して学際領域学科（仮称：文理探究学科）を設置する。総合人文コースの人文科学・社会科学の学びを発展させ、自然科学の学びも取り込んだ「文理をクロスする学び」として学際的テーマでの探究活動を中心軸とした学びを展開する。
- 学際的な探究活動を体系的に実施【4(1)参照】
 - 〔1年〕『CROSS I』……探究活動の基礎固め
身近な地域に関するミニコミ (mini communication) 誌・動画づくり、学問リサーチ、プチ探究、地域探究プロジェクト入門
 - 〔2年〕『CROSS II』……スパイラルに探究活動を実践（探究のサイクルを繰り返しながら深めていく主体的で課題解決的な学び）
地域探究プロジェクト実践、アカデミックリサーチ
 - 〔3年〕『CROSS III』……探究活動のまとめ
論文作成、2年生の探究活動のメンター制（後輩に的確な助言ができる協働的な学び）
- 学際的な探究活動を支えるための科目「クリエイション」
 - 『クリエイション I』（1年1単位）
STEAM教育講座、ビルドアップレクチャー（デザイン思考講座、データリテラシー向上講座、テーマに関する教科を越えたオムニバス講座）
 - 『クリエイション II』（2年1単位）
国際貢献活動にかかわるプロジェクト挑戦、ビルドアップレクチャー（ファシリテーション講座、グローバルリーダー論講座、ローカルリーダー論講座）
- Win-Winの関係で探究活動を支援する連携機関「MIKAGE コンソーシアム」
総合人文コースの探究活動において、神戸大学文学部や神戸市東灘区との連携においては、双方にメリットのある Win-Win の連携関係を構築することで、今までの協働活動により良好な連携関係からさらなる発展を目指す。【4(2)参照】
新学科設置の際にも、学際領域学部である神戸大学国際人間科学部をはじめ様々な機関と双方にメリットのある連携として、生徒を中心に据えた学びの共創の形態となるように「MIKAGE コンソーシアム」を構築する。
- 学科生全員履修の先進的な学びを取り入れた学校設定科目設置【4(1)参照】
 - 『クリティカルシンキング』（2年2単位、3年2単位）
 - 『探究英語』（2年2単位、3年2単位）
- 国際的な取組や企業の取組等を学ぶ機会を積極的に提供

学際的課題を国内外の広い視野で考えるため、国際NPOによる途上国支援やSDGsに積極的に取り組む企業の取組を学ぶ機会を積極的に提供する。

- 独自の特色ある学校行事の実施
 - ことばのカンポジウム(各界で活躍している卒業生の講演)、フィールドワーク(県外高校生との探究活動交流会)、御影セッション(学年を超えた学び合い)等

2 事業の目的等

(1) 学際領域学科又は地域社会学科を設置する高等学校を取り巻く状況の分析、学際領域学科又は地域社会学科を設置する必要性

- 本校の総合人文コースの成果と課題

本校の総合人文コースは、神戸大学文学部や神戸市東灘区役所とのWin-Winの関係での連携【4(2)参照】による、地域の課題をテーマとする探究活動を特色として行ってきた。地域の課題に関心を持つことや、グループで協働して探究しその結果を発表する活動に積極的に取り組むという点では、コースは十分成果を上げている。

しかし、教育課程が文系のみへの対応であり、中学3年生段階で希望進路を絞る必要があるように捉えられるためか、定員(40人)の100%を推薦で募集し、出願者数が定員に満たない事態が発生(令和3年度入学生)したことに加え、地域での活動に重点を置く教育活動を展開しながら、教育課程上の制約で、自然科学の視点からのアプローチがしにくい現コースの対応では、限界が見えつつあった。一方、広い視野に立てば、Society5.0の時代の到来に伴い、AIが進展する予測不能な今後の社会に対し、SDGsの実現に向けた地球温暖化や自然災害、食料不足問題、人口問題、貧困、感染症など、地球規模の課題を解決するためには、文系・理系を超えた幅広い視点、ものの考え方ができる人材、溢れる情報を分析・整理できる力を備えた人材の育成が必要であると考えられる。そこで、文理を超えた視点で考えることや、地域の課題から地球規模の課題に視点を広げるといった点は、現コースの大きな課題であると考えられた。

また、この課題は令和3年度にコースの2年生を対象として実施した、三菱UFJリサーチ&コンサルティングによる「高校魅力化評価システム」のアンケート結果でも明確な形で示された。

〔質問項目〕	〔当てはまると答えた生徒の割合〕
・グループで協力しながら学習や調べものを行う	90.2%
・活動、学習のまとめを発表する	91.2%
・地域の課題の解決方法について考える	100.0%
・将来の国や地球の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	44.1%
・国際社会の課題解決に貢献したい	67.6%
・客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることができる	50.0%

- 総合人文コースを学際領域学科に改編する必要性

こうした本校の総合人文コースにおける課題を解決し、これからの社会で求められる人材育成を目指すためには、学際領域学科に改編し、様々な機関と連携した文理融合の学びを展開することが必要である。また、コースの学びを生かして、地域の課題を考えること(ローカルな視点)が地球規模の課題を考えること(グローバルな視点)に繋がっていると理解できるような学びも展開したい。

- 主体的な学びを継続させるための大学進学を目指す普通科の先進的モデルを目指す

本校は神戸市の都市部である東灘区にあり、生徒のほぼ100%が大学入試を目指す普通科高校である。全国の多くの普通科高校がそうであるように、大学入試を意識すれば、受験科目に対応した学びに力を入れがちとなる。

こうした中、生徒・保護者の学びに対する意識改革として、本校職員による講義-聴講形式だけにとどまらない幅広い学びを行い、内発的な動機・意欲を高めることにより、学際領域学科を設置し主体的な学びを継続させるための大学進学を目指す、全国にある都市部の公立普通科高校における先進的な学びを展開していきたい。

(2) 学際領域学科又は地域社会学科における取組の目的・目標（学際領域学科又は地域社会学科における教育を通じて育成を目指す資質・能力を含む）

○ スクールミッションおよびスクール・ポリシーで示した育成を目指す4つの力

令和3年度に本校で作成したスクールミッションおよびスクール・ポリシーにおいて、以下の4つの力を、グラデュエーション・ポリシー（本校生徒に対して育成を目指す資質・能力）としている。

『主体性』（自ら課題を見つける力・主体的に取り組む力・継続的に取り組む力） 未来の自分を見据え、自ら問いを立て、主体的に最後まで粘り強く取り組むことができる生徒
『協働性』（多様な価値観を受容する力・協働的に取り組む力・リーダーシップ） 価値観の多様性を認め、誰とでも力を合わせて協働し、社会のリーダーとして活躍できる生徒
『課題解決能力』（正確に事象を把握し分析する力・課題の解決策を見出す力） 現状について正確に把握・分析し、見つけた課題を正しい理解や情報をもとに解決できる生徒
『言語表現スキル』（熱意・好奇心・挑戦しようとする力・発信力） 力強い一歩を、情熱と知的好奇心をもって踏み出し、失敗を恐れずに挑戦・発信できる生徒

○ 学際領域学科に必要な力は4つの力に加えて『多様な認識・高次の認識ができる力』

上記で示した4つの力は、「非認知能力」と言われるものであるが、学際領域学科を設置するにあたっては、これらの4つの力に加えて、「認知能力」（数値化できる知的な能力）も重要であると考え。そこで、学際領域学科において育成したい力としては、上記4つの力に加え、文理融合の学びを通して『多様な認識・高次の認識ができる力』を加え、これら5つの力の育成を目指す。

そのためには、探究活動の現状を教科の授業担当者とも共有する場面を設けるなど、探究活動と教科の授業との関わりを意識することに加え、教科の授業に限らず、探究活動や課外活動を含めた教育活動のさまざまな場面において、生徒達がグループでディスカッションしたり、初対面の方に対して自らの研究を伝えたりする活動を増やすなどの工夫をしていく。そうすることで、社会の持続可能性に関わる学際的で複雑な課題に対して、各々の知識に加え、「多様な認識」や自らの知識をもとに、「主体性」「協働性」「課題解決能力」、そして、「言語表現スキル」を生かして、その時にふさわしい適切な解を探し求めることができるような生徒を育てたい。

○ 総合人文コースを改編して設置する学際領域学科の目標

こうした中、総合人文コースを改編して設置する学際領域学科の目標を、次のように定める。

大学や行政・企業など様々な機関とのコラボレーションによる探究を中心とした文理融合の学びを通して、より広い価値を創造し、多様な認識や高次の認識ができる力を持って、学際的課題の解決に向けて、将来社会で活躍できるリーダーシップをもったクリエイティブな人材を育成する。

なお、文理融合の学びを生かすために、教育課程は生徒の主体的な学びを継続させるための多面的な編成を行うとともに、コーディネーターを中心に創設する「MIKAGE コンソーシアム」の協力のもと、生徒に将来のロールモデルとなるような社会で活躍する方々を招聘した授業を行い、生徒により具体的な将来像を思い描かせ、学び続けた後の「自分」を意識させることにより、主体的に学び続ける生徒を育てていきたいと考えている。

3 実施体制

(1) 管理機関における実施体制や事業の管理方法

【事業実施に向けた経緯】

本県では、「ひょうご教育創造プラン（兵庫県教育基本計画）」に基づき、県立高等学校に関する具体的な取組の考え方と方向性を示す「県立高等学校教育改革実施計画」を策定し、計画的に教育改革を進めてき

た。

具体的には、「第一次実施計画」策定（平成 11 年度）以降、「学びたいことが学べる学校づくり」を一貫した基本理念とし、特に、普通科学年制においては、コースの設置に加え、複数の学校設定科目を設定し、生徒の興味・関心を重視した入試を行う本県独自の特色類型を設置してきた。この結果、専門学科の併置校を除く全ての普通科学年制高等学校にコースまたは特色類型のいずれかを設置するに至っている。（コース 15 校、特色類型 55 校）

普通科新学科については、令和 4 年 3 月に策定した「県立高等学校教育改革第三次実施計画」において、設置の方向性を明確に打ち出すとともに、普通科コースの改編を軸とした全県規模の配置を計画的に推進することとしている。

県立御影高等学校と県立柏原高等学校は、普通科コースの内、いち早く普通科新学科への改編を意識したカリキュラム等の研究を組織的に行っており、高校教育課とも数次にわたって調整を進めてきた経緯があることから、2校を申請することとなった。

なお、普通科新学科の設置時期は、令和 4 年度より入試方法の概要を含めた検討を行った上で公表し、1 年間の周知期間を設けることから、令和 6 年度としている。

【事業の実施体制】

- ①「普通科新学科設置準備委員会（仮称）」の設置
 - ・普通科新学科の設置を目指す高等学校（10 校程度）を構成員とする「普通科新学科設置準備委員会（仮称）」を、高校教育課主導で設置
 - ・定期的に会議を開き、各校の改編に向けた進捗状況を確認するとともに、課題や解決策等を共有
 - ・本事業指定校には、モデル校として中心的な役割を付与
- ②本事業指定校が開催する運営指導委員会等への参画
 - ・本事業指定校の運営指導委員会等に、高校教育課長が委員として参画
- ③本事業指定校に対する県独自の支援
 - ・探究活動に特化した特別教室の整備（ICT 環境等の充実）
 - ・担当指導主事による継続的な指導助言
- ④普通科新学科に関する周知
 - ・普通科新学科の特長等に関する組織的な広報の展開（HP 等の充実）

【事業の管理方法】

- ①本事業指定期間中
 - ・運営指導委員会における進捗状況の把握及び指導助言
 - ・「普通科新学科設置準備委員会（仮称）」における報告の義務化
- ②本事業指定終了後
 - ・普通科新学科設置後の成果報告を義務化
 - ・本事業終了後の人的配置の検討

（2）管理機関における事業全体の成果検証、評価のための体制、考え方

【事業評価の体制】

- ①運営指導委員会での検証
 - ・高校教育課長をはじめ、担当指導主事による継続的な評価及び指導
 - ・外部委員等による、客観的な視点からの継続的な評価
 - ・大学教授等の有識者による、学術的な視点からの継続的な評価
- ②コンソーシアムでの検証
 - ・高校教育課長をはじめ、担当指導主事による継続的な関与及び助言
 - ・コンソーシアム構成員による、多角的な視野からの評価
 - ・校内の教職員及び生徒による、計画的な自己評価